

「住民の手作り特産品に プチ観光の客が集まる」

みたけ華ずしの会



産業観光 まちづくり大賞の 特別賞を受賞

昨年、産業観光ガイド（全国産業観光推進協議会）の第6回「産業観光まちづくり大賞」の特別賞を、みたけ華ずしの会（岐阜県御高町）が受賞した。同賞は、観光による地域振興の新しい手法として注目されている「産業観光（産業遺産や、現在稼働している産業施設などを活用した観光）」による観光まちづくりを実践し他の地域の模範となっている地域を表彰する制度で、平成19年度の創設。

御高町は人口2万人弱。古くは京と東国を結ぶ五畿七道のひとつ・東山道が近くを通っていたとされ、江戸時代には主要街道である中山道の御高宿・伏見宿（江戸から49番目と50番目の宿場）が旅人で

にぎわい、永く人・物・情報・文化の往来する東濃の中枢地域として発展してきた。しかしJR中央線が名古屋―多治見―中津川と通ることによって旧街道は徐々に賑わいを失っていった。戦後の一時期は化石燃料の垂炭が発見され、エネルギー源として採掘されて町に活気があふれたこともあった。とはいえ、永らく地域一帯の中心的な役割を果たし、歴史的な史跡や名所、産業遺産が町内各所に点在しているにもかかわらず、そうした「資源」を観光に結びつける取り組みが充分になされてこなかったのである。

そんななか、平成18年度に御高町が策定した「御高町第四次総合計画」のなかで、「中山道をもう一度見直し、地域固有の財産として活用して、いかに」が定められた。これを機に住民と行政とのワークショップが繰り返され、具体的な取り組み事項を定めた「御嶽宿地域再生構想」が出された。さらには、同構想中のイベント・景観づくり・にぎわい拠点づくり・特産品づくり等のなかから、とりわけ「景観づくり」と

「イベント事業」に着目。地域住民を中心とした団体「みたけ地域活性化委員会」が発足し、手づくりの景観修景作業がスタートした。以降、およそ4年間にわたって名鉄・御高駅舎など建物3件のリフォームの他に、町内のゴミ箱を木で囲うといった地道な景観整備を住民自身が手がけてきた。

無ければ創ろう！特産品 ―地元の歴史と素材を フルに活かして

一方、これまで「御高町の特産品は何？」「自慢できるものは何？」そう聞かれても、胸を張って「これです！」と言えるものは無かった。そこで、地元のお母さんたちが「無いなら創ってしまおう！」「御高に特産品を！」と発奮、新たな郷土食として「みたけ華ずし」の開発・普及に精力的に取り組んできた。この「華ずし」のすばらしさはなんと言っても「見た目の美しさ」だ。牡丹・バラ・ササユリなど種類も

豊富。食べてしまおうのがもったいないほどだ。

そもそもみたけ華ずしの誕生には、御高町の歴史の中で脈々と受け継がれてきた古代の街道・東山道、江戸時代の中山道の存在や、さらには、街道を伝って人・物・文化が往来し御高宿発展の礎となった大寺山願興寺の存在がある。およそ1200年という歴史を誇る願興寺の寺紋が牡丹であることにあやかって、華ずしの切り口を牡丹としたのだ。こうして新生の特産品に「歴史とストーリー性」が伴った。

さらに、巻き寿司の材料は地元素材にこだわった。玉子や漬物などをふんだんに使い、切り口がきれいな牡丹になるよう改良を重ねてきた。当初は味にバラつきがあったが、試行錯誤の末、現在では味も定着し、華ずしの種類も今や10種類。たとえば可児市の花・バラ。中仙道を通って第14代將軍・徳川家茂に降嫁した皇女和宮の歌「落ちてゆく身と知りながらもみぢ葉の人なつかしく恋こがれこそすれ」にちなむもみじ。さらには地元「みたけの森」が自生地として知られ、「ささゆりハイキング」も行われているササユリなども。ここにも「地元の歴史と自然」という切り口が見え隠れする。

みたけ華ずしの会では、目先の利益にとらわれず、「華ずしを新たな郷土食として普及させたい」という地元のお母さんたちの信念のもと、5年ほど前から普及活動に取り組み、昨年からは毎週火曜日を「みたけ華ずしの日」とし、「御高宿」内のおもてなしと交流の拠点「御高宿わいわい館」で華ず

しの提供と講習会を行っている。ここでは、午前中は地元の上之郷中学校の生徒たちが丹精込めて作った舂五山茶とセットにし20食を販売、午後からは20名を対象に「華ずし講習会」を開催。主催者は、「週1回、わずか20名限定ではあります。御高町の「新たな体験型観光」が芽生え、花開こうとしつつあります。今後はさらに旅行会社等への売り込みなども含め、短時間滞在・体験型「プチ観光」のモデルとして、規模を広げ定着を図っていききたい」と積極的だ。

そんな地に足の着いた努力も実って、毎回近隣はもちろん岐阜・愛知県各所から多くの参加者が足を運ぶようになった。「見た目以上に簡単に巻ける！巻いて楽しむのもよし、その場で食べるのもよし、家へ持ち帰って家族にプチ自慢してみるのも楽しいね」と好評だ。平成23年度には、なんと千名を超える人が「みたけ華ずし体験」を受講。「御高といえは華ずし」とまで言われるようになった。そしてバスツアーによる「華ずし体験」が商品化されるまでになり、「短時間滞在・体験型プチ観光」のモデルとなっている。

一方、華ずしは東海北陸自動車道・長良川サービスエリアでレストランメニューとして新発売されることになった。これを商品化したNEXCO中日本の岐阜保全・サービスセンターの伊東所長は、「かも1グランプリ会場でもみたけ華ずしと出合い、それから地元の方々の協力により商品化に到ったことを嬉しく思います」。渡邊公夫 御高町長も「これまでのみたけ華ずしの会

の努力が認められました。プロに料理し販売していただだけ、嬉しい」と笑顔。これまで地域おこしのために県内外で積極的にみたけ華ずしを広めてきたみたけ華ずしの会の堀田照子会長は、「(長良川SAでの)メニュー化に感謝しています。多くの方に召し上がっていただき喜んでいただければ嬉しい。高速道路と名鉄を利用してのみたけ華ずし体験などで、多くの方との交流も期待できる」と喜んでる。

最後に、同賞の受賞理由を挙げておこう。「歴史街道と食を結びつけ、小規模ながら丁寧に体験メニューを積み重ねている点などが、歴史街道の宿場として発展した文化を活用した観光振興の要となる可能性が大きい。歴史のストーリーがしっかりとっており、「みたけ華ずし」という魅力的な「食」資源を開発し、さらに種類を拡大させることにも、品質の高度化を図ることで、商品化(販売・講習会の開催)に結びつけた点が高く評価される。日本を代表する食文化であるお寿司を活用して、海外からの誘客を視野に入れ、日本の食文化として育てていきたいと取り組んでいる点が評価される。NEXCO

地域振興プロジェクトのご紹介

「ギフネット」広報委員会では東京とふるさと岐阜の紐帯をより深め、確かなものとしてゆくお手伝いとして、県下各市町村で独自の視点から展開されている「地域振興事業」をご紹介します。

前号で取り上げた飛騨市の鉄道廃線を活かした「レールマウンテンバイク」は、昨年、国土交通省主催の第11回「日本鉄道賞」の「選考委員会特別賞」を受賞。また今年、

中日本との連携により高速道路サービスエリアでの新メニューの採用や、バス会社との連携によるバスツアーの展開など、民間企業との連携によるビジネスモデルへの試みが評価される。」などであった。

何より、最大の功績は地元笑顔と活気をもたらしたことがもしまない。

(構成・荒垣さや)

御高宿わいわい館

www.kankou-gifu.jp/spot/3779/preview



(公社) スポーツ健康産業団体連合会主催の「第1回スポーツ振興賞」の「スポーツとまちづくり賞」の「日本商工会議所奨励賞」を受賞しました。

次号のテーマとして取材を受けてもよいという関係機関の方はぜひ「こ」報ください。

担当 ギフネット広報委員 荒垣さや

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館14F 岐阜県東京事務所内

東京岐阜県人会「ギフネット」係